

1 節 働く

人が働くことは「経済的自立」のためだけではなく、自分を生かし、社会の一員としての役割を果たすなど、様々な面がある。

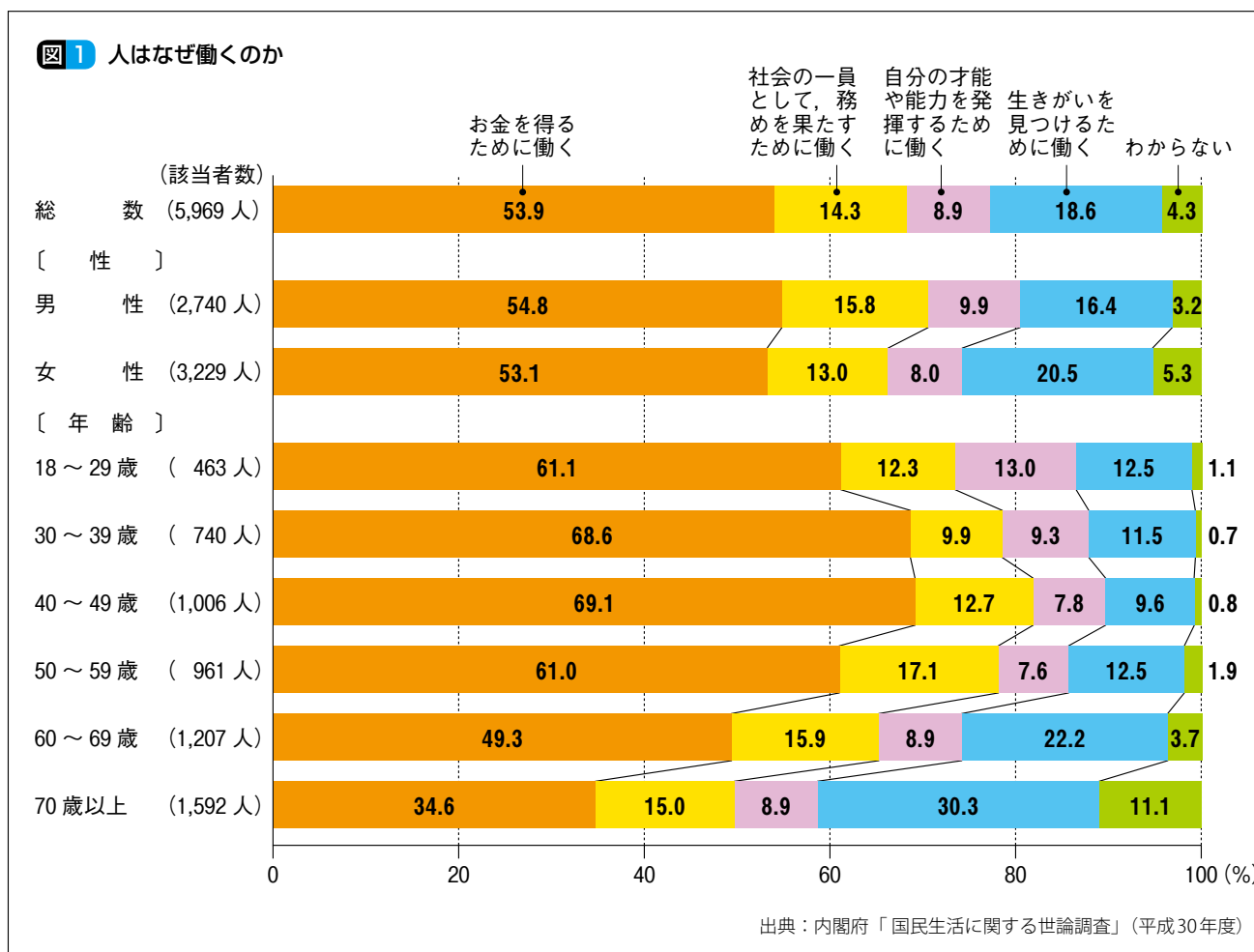
ここでは、働くという視点から、あなたの人生を考えてみよう。

ワーク 1

① 働く目的について、あなたが共感するすべてのものに○をつけてみよう。

- お金を得るため ● 社会の一員として務めを果たすため ● 自分の才能や能力を発揮するため
- 社会的に自立するため ● 人間関係を豊かにするため ● やりたいことを見つけるため
- 次世代の人材を育てるため ● 生きがいを見つけるため ● その他 ()

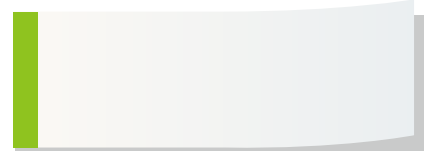
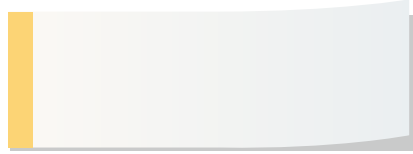
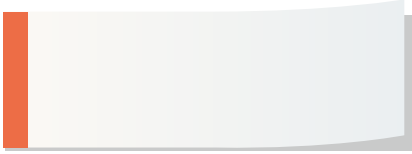
② 図1を見て、年齢別、性別の違いなど気付いたことを話し合ってみよう。





メモ

- ③ ①への自分の回答を踏まえ、「なぜ働くのか」の問いに対する考えを、あなたの言葉で三つ、付せん1枚に一つずつ書き出してみよう。



④ <グループワーク>

付せん書いた言葉をグループで共有し、気付いたことや考えたことを話し合ってみよう。



メモ

- ⑤ ③④を振り返って、感じたことや考えたことを書いてみよう。

近未来の社会と職業

大学生の就職状況（文部科学省「平成29年度学校基本調査」）を見ると、産業別では、卸売業・小売業、次いで医療・福祉、製造業、金融業・保険業等の順となっている。

就きたい職業を検討したとしても、例えば、電話が直通でなかった頃、回線を手動でつなげる「電話交換手」という職業が、直通でつながる電話の登場とともになくなったように、将来、その職業がどうなっていくのか予想は難しい。

AIの発達により、これまでの仕事がロボットに置き換えられるなどの変化が起こっている一方で、全く新しい職業が誕生することも考えられる。

またIoT社会の到来に伴い、人々の働き方も大きく変わる可能性もある。

【人工知能 (AI)】

人工知能 (Artificial Intelligence:AI) とは、人の知的な活動をコンピュータ化した技術。

【IoT(Internet of Things)】

IoTとは「モノのインターネット」と訳され、様々なモノにインターネットを通じて接続されること。

ワーク・ライフ・バランス

これからの人生、5年後、10年後、あなたはどのように暮らしたいだろうか。自分の人生を切り拓いていくために、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を考えてみよう。

仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」である。（平成19年12月18日 仕事と生活の調和推進官民トップ会議決定）

■ ワーク・ライフ・バランスとは

ワーク・ライフ・バランスの動きは、1980年代の終わり頃にアメリカやイギリスで生まれた考え方である。最初は仕事と子育てとの両立支援が中心だったが、男女や子育て期か否かにかかわらず、誰もが働きやすい仕組みに拡大されるようになった。

ワーク 2

学校での勉強とクラブ活動や友人と遊ぶ時間を両立するためには、どのような工夫が考えられるだろうか。書いてみよう。

COLUMN

長時間労働

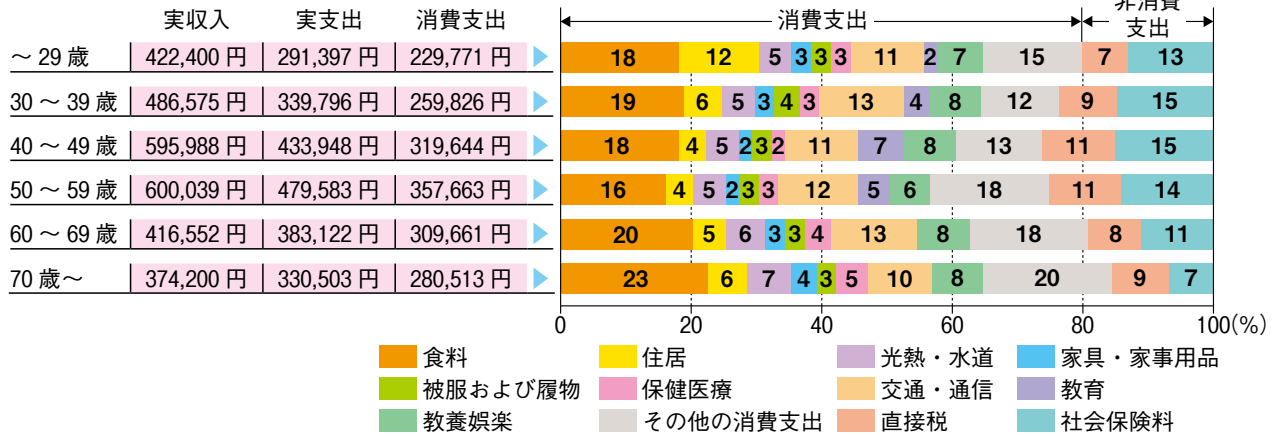
我が国においては依然として長時間労働が問題となっており、長時間労働の削減は喫緊の課題と言える。これに取り組むため、「働き方の見直し」に向けた企業への働きかけなど長時間労働の削減に向け、様々な取組が行

われている。長時間労働が抑制されることで、ワーク・ライフ・バランスが推進され、女性、高齢者等が、仕事に就きやすくなるといった効果も見込まれる。

ライフステージと家計

収入は、自分だけのものではなく、共に暮らす家族がいる場合、家族全員の生活や将来を考えて、生涯を見通した長期的な経済計画が必要である。

図2 ライフステージ別実支出の内訳



出典：総務省「家計調査年報（家計収支編）」（平成29年）

振り返り

時代や社会が求める職業が変わっても、働くことは、下の三つの観点から考えることができる。

経済的観点

- 働くことによって収入を得て、自分自身や家族の生計を支えている。
- 働くことと収入との関係は、社会的な貢献とその対価としての報酬とみることができる。

個人的観点

- 働くことによって、自分の能力を発揮している。
- 人が自分のよさや特技を発揮する機会であり、それによって、やりがいや働きがいを感じるすることができる。

社会的観点

- 働くことによって互いに生活を支え合っている。
- 社会の一員としての役割を果たし、社会的な貢献をしている。

ワーク1で、この三つの観点がいっているか見直し、もう一度「なぜ働くのか」という問いに対する今のあなたの考えをまとめてみよう。